

令和 2 年度
社会福祉法人愛光園
事業報告書

目次

1、総括	1
2、各事業所の状況	1
（1）稲岡事業所	1
（2）アイタウン	5
（3）山川事業所	7
（4）大久保事業所	9
（5）あづま事業所	10
（6）六郷事業所	13
（7）猿田事業所	16
（8）愛光園障害者相談支援センター共生	17
（9）足利市障がい者基幹相談支援センター	18
3、部会報告	
（1）就労部会	21
（2）介護部会	22
（3）居住部会	23
（4）地域支援部会	23
4、評議員会の開催状況	24
5、理事会の開催状況	24
6、職員の研修等実施状況	25
7、事業別職員数	28
8、補助事業の活用状況	29

令和２年度 事業報告書

１．総括

令和２年度を一言で語れば、真に“新型コロナウイルスの感染拡大への防止に終始”した１年でありました。それはこの年の２月頃から感染が始まり、またたく間に日本中に拡大、緊急事態宣言が２回（４月、１月）も発令され、国民は自粛生活を強いられ集団で活動するイベントやレジャー等への中止や延期又は条件付きの開催など不自由な生活を余儀なくされました。

この事は私共法人・事業所においても、感染を防止すべく、手洗い・消毒、マスクの着用をはじめ、建物内ではソーシャルディスタンスを利用者等にお願ひし、職員はこうした活動や作業・生活両面に最大限の注意を払ってきました。また利用者の帰省についても制限をお願ひするとともに外来者の方々への入室（館）については一定の条件のもとで受付をいたしました。その効果があり、愛光園の事業所内において、利用者・職員ともども感染者を出すことなく、現在に至っていることは大きな成果であったと思っています。しかしながら、今年度に入っても変異ウィルスの感染拡大等により、第３回目の緊急事態宣言も発令されました。ワクチン接種も始まったとの報を耳にするたびに、出来るだけ早い接種の機会を待っているところです。

さて、こうしたコロナ禍で大きな影響を受けたのは就労面での受注減少でした。リネンサプライでのホテル・レジャー関連において、一時約８０％の減収となり取引をしている２社の内１社においては契約の中止となり、食品事業でもギフトや進物品が全く売れないと言っていい位の打撃を受けました。これに対して、出来る限りの営業努力と商品開発に注力したことで、全体としては令和元年度に比べ約△３％程の状況で済んだと言えます。

就労・生産活動事業に比べ、福祉サービス事業においては、当初予算を上回る実績を達成することができましたことは、コロナ禍での大きな評価に繋がりました。

その他以下の活動・実績をもって事業報告といたします。

記

1. 利用者の工賃アップの実績
2. 職員の法人内の研修等による資質向上
3. 就労・介護・居住・地域支援の各部会活動による支援技術研究の取組及び法人内サービスの連携強化

２．各事業所の状況

（１）稲岡事業所

ア、就労系サービス《愛光園（就労継続支援Ｂ型）》・《共働舎（生活介護）》

ａ 概況

- ・コロナ禍においてホテルリネンの売り上げについて、緊急事態宣言が発令された５月は８０％減、全体とすると１５％の減となるなど、大きな打撃を受けることとなりました。そんな中でも取引企業様との連携を深め、医療関連の売り上げの向上を行えたことで、事業所としては約５％の減少でとどめることができました。また、利用者への作業においても、手が空いてしまうことが起きないように、作業の提供を行うことができました。
- ・６月に連続式洗濯機の入替え工事を行い、生産体制の再構築や効率的な洗浄工程を実施し、品質の高い仕上げが行えるよう働きかけました。

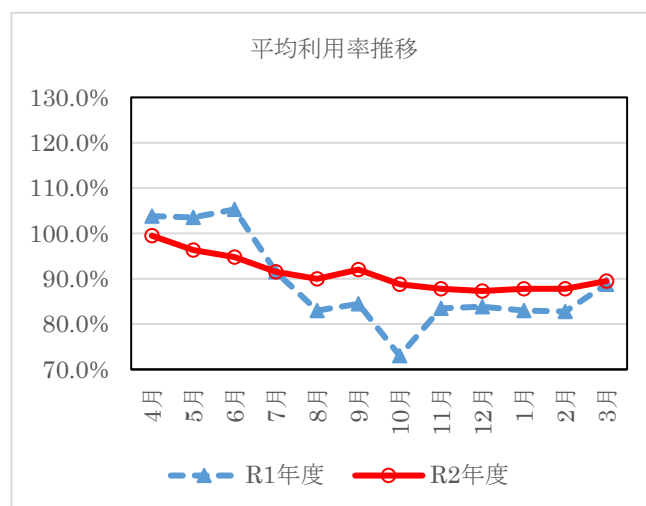
- ・感染症をもつ利用者（HIV、肝炎等）の対応や虐待防止等について、全職員に対して勉強会を実施し、利用者支援の質の向上に努めました。
- ・コロナウイルス感染予防として、同一敷地内にある陽光園と接触がないようにエリアを区切ったり、食事の際にパーテーションを置くなど、3密を避け、1年を通して感染者を出すことなく、事業を行うことができました。
- ・利用者のレク活動はコロナ感染予防のため、外出行事を避け、事業所内でのレクに終始することとなりました。その中でも担当スタッフが工夫を凝らし、年間通して利用者喜んでいただける企画を行いました。

b 利用率の推移

《愛光園（就労継続支援B型）》

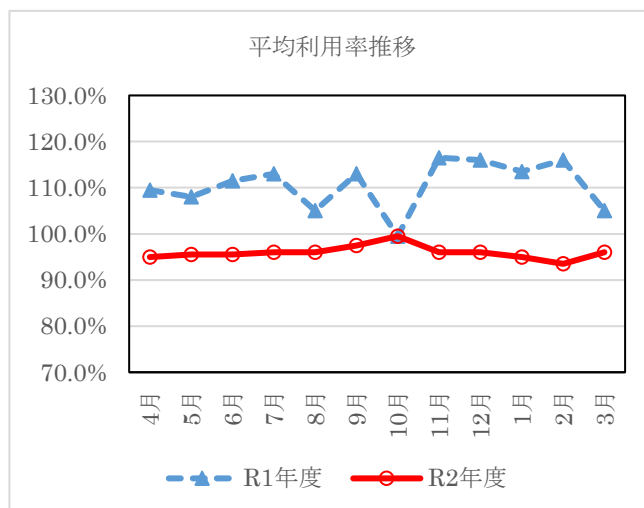
定員	40名
開所日数	311日
延べ利用者数	11,318名
平均利用者数	36.4名
平均利用率	91.0%
平均工賃	30,087円

※以下就労継続支援B型は平均工賃、生活介護は平均区分を示しております。



《共働舎（生活介護）》

定員	20名
開所日数	311日
延べ利用者数	5,956名
平均利用者数	19.2名
平均利用率	96.0%
平均区分	4.4



イ、入所・介護系サービス《陽光園・（施設入所支援+生活介護）》・《愛光園ホーム（福祉ホーム）》
《サンリット（通所介護、介護予防通所介護）》

a 概況

- ・平均障害支援区分が5.6と、法人内で最も重度の方が多く利用されている事業所の中で、職員体制1.7:1と、職員を手厚く配置し、入浴サービスをはじめ、重度の利用者への身体介助や生活の支援を行いました。

- ・特に重度の方が過ごされている施設入所支援については、コロナウイルス感染防止策を徹底し、利用者・職員とも感染者を出すことなく、過ごすことができました。

※主な取組 地域の感染状況による入所者・通所者のエリア分け、外出・外泊・面会の自粛、食事エリアのパーティション設置、手洗い・うがい推奨 等。

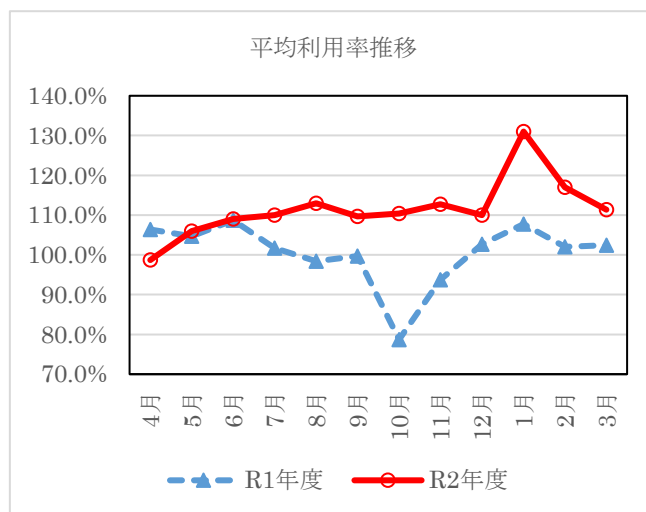
また、利用者が併用利用されている法人外の施設とも連携を取り、必要度に応じた利用形態の変更などを行い、感染予防に努めました。

- ・班ごとの担当による支援体制を継続し、それぞれが責任をもって支援にあたることで、個別支援の強化に繋がりました。通所の方についてはコロナ禍の中でご自宅への訪問や、面談が実施困難となり、電話での定期的な連絡を行い、日中の過ごしている様子や、要望等を聞きニーズの聴取に努めました。
- ・足利の緊急短期入所事業（あっしーネット）において、市内で初めて受け入れを実施し、地域の障害のある方の安心した生活の推進を行ったほか、家族の緊急的な事情等により、自宅での生活が困難になった際の短期入所での受け入れを行いました。
- ・令和元年10月に起きた水害被害による修繕工事が令和2年8月に完了し、元の設備の中で支援が再開できるようになりました。
- ・サンリットにおいては、陽光園の企画に参加するほか、利用者層に応じた独自の行事等を企画実施しました。

b 利用率の推移

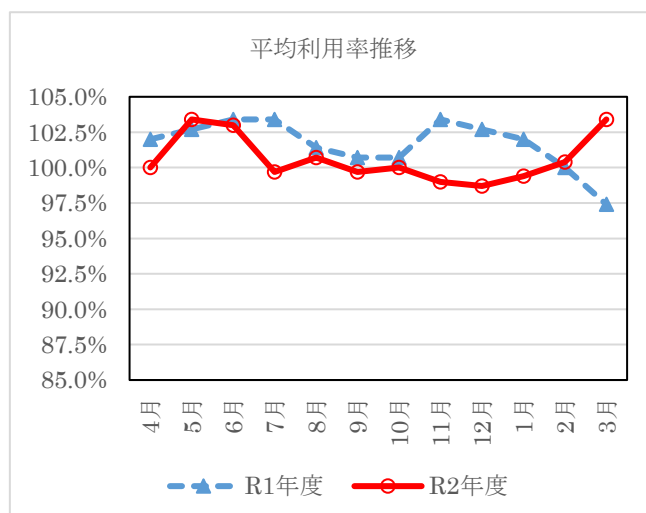
《陽光園（生活介護）》

定員	30名
開所日数	311日
延べ利用者数	10,373名
平均利用者数	33.4名
平均利用率	111.4%
平均区分	5.6



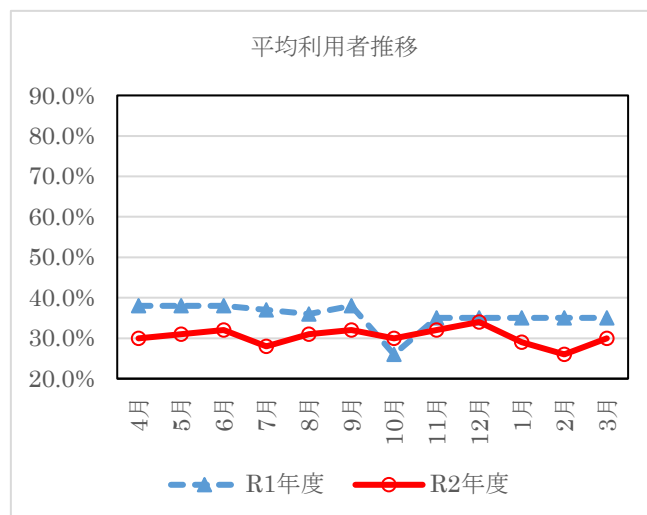
《陽光園（施設入所）》

定員	30名
開所日数	365日
延べ利用者数	10,999名
平均利用者数	30.2名
平均利用率	100.7%



《サンリット（通所介護、介護予防通所介護）》

定員	10 名
開所日数	262 日
延べ利用者数	792 名
平均利用者数	3.1 名
平均利用率	30.0%



《愛光園ホーム（福祉ホーム）》

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
定員	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60	5
利用者数	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	3	0.25

(2) アイタウン《ホームほのか・ホームひだまり（共同生活援助）》

a 概況

- ・毎朝の検温、体調確認、マスク着用、手洗いうがい、手指消毒、換気、ホーム内の消毒等のコロナウイルス感染予防を実施し、感染者を出すことなく過ごすことができました。また、入居者本人、家族のご協力のもと、外出、外泊、面会の制限を行いました。その際、入居者のストレス軽減に努めました（買い物代行、運動等）。
- ・日中事業所、相談支援センター、行政等の関係機関と連絡を密に取り、1日を通して入居者が安心して生活できるように支援を行いました。
- ・事故を未然に防ぐため、改善点について、話し合い、対策を迅速に行いました。
- ・地域交流として、町内のペタンク大会には、練習から10名以上の利用者が参加し、町内の皆さんと一緒に汗を流し、楽しむことで、関係を深めることが出来ました。
- ・安全に生活を行うための一環として、7月に警察官による交通安全講習会を開催して、入居者と一緒に自転車乗車時、歩行時の交通ルール・マナーを学びました。
- ・全職員が虐待防止研修に参加し、虐待防止、支援等のスキルアップに努めました。
- ・利用者の満足度、季節感を考えて、毎月1回レクリエーションを企画しました。
- ・看護師（日々の医療的ケア等）、栄養士（栄養面談等）と連携し、利用者の健康、体調管理に努めました。
- ・レクリエーションは、コロナウイルス感染予防から法人内、屋外中心となりました。

4月 運動公園散策、手作りランチ

6月 家庭菜園、お好み焼き

7月 DVD鑑賞、事業所内カラオケ

8月 花火とかき氷

10月 運動公園散策、手作りカレーライスとデザート

11月 ストレッチ体操、とちぎ花センター散策とドライブ

12月 クリスマス会（グループ分けをして、密を避ける）

1月 初詣、書初め

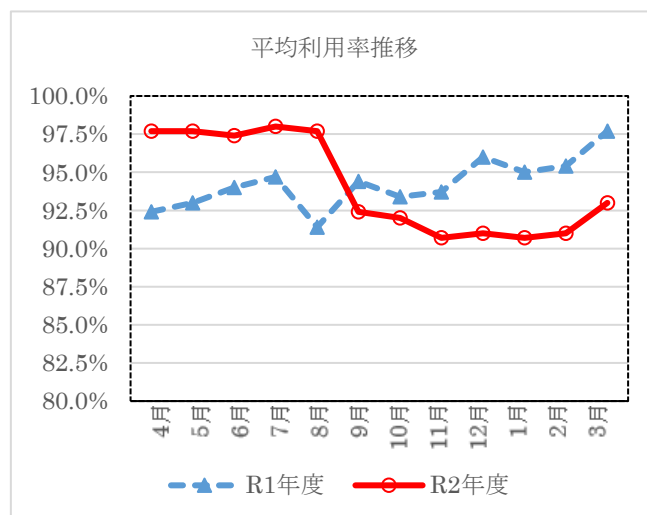
2月 恵方巻とつみれ汁

3月 テイクアウト

b 利用率の推移

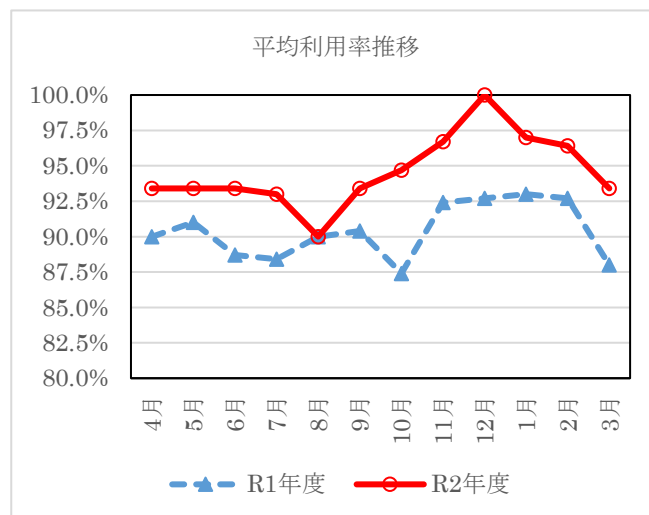
《ホームほのか（共同生活援助）》

定員	30名
開所日数	365日
延べ利用者数	10,290名
平均利用者数	28.2名
平均利用率	94.0%



《ホームひだまり（共同生活援助）》

定員	30 名
開所日数	365 日
延べ利用者数	10,344 名
平均利用者数	28.4 名
平均利用率	94.7%



(3) 山川事業所

ア、《足利愛光園（生活介護・就労継続支援B型）》

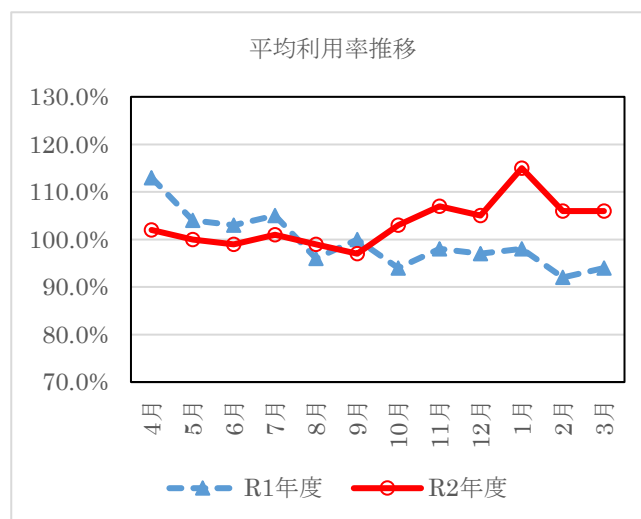
a 概況

- ・生産活動において、コロナ禍による影響を心配しておりましたが、施設・病院関係のクリーニング作業を中心に行っている事で、大きな受注量の減少もなく作業量を確保できました。
- ・就労継続支援B型においては、作業適性、作業種目の見直しを行う事で、作業に対する意欲向上が作業効率にも良い影響となり高工賃取得へ繋がる利用者も増えました。
- ・主要機械の連続式洗濯機、脱水機、乾燥機等の日頃のメンテナンスに加え、老朽化する設備に注意をしながら対応し、異常があればメーカー等と早急に連絡調整を行い、生産活動に影響しない体制で取り組む事で、大きなトラブルもありませんでした。
- ・熱中症対策で、洗濯工程担当の利用者に対してはスポーツドリンクの提供等を行いました。また、全員に暑い時期のアイスクリームの提供を行い大変好評でした。（かき氷、サーティワン、シャトレゼのアイス等に変更して楽しみました。）
- ・誕生月の利用者を対象にお祝い昼食を提供し好評でした。（各月の利用者が選択出来る内容）
- ・行事についてはコロナウイルス感染症の影響もあり園内で出来る行事を行いました。（ハロウィン、クリスマス、特別弁当、歳末プレゼント、よくばり昼食レク、手作りパフェレク）
- ・外出レクは法人内；一步、三桝屋本店に限定して行いました。（GOTO 一步：好きなクッキー等を選んでお持ち帰り。三桝屋：あんみつ＋飲み物を頂きました。）
- ・コロナ、インフルエンザ等の感染症対策（マスクの着用、手指消毒の徹底、取手等の消毒）を通年行う事で、感染症の発症者も出ず支援を続けられました。

b 利用率の推移

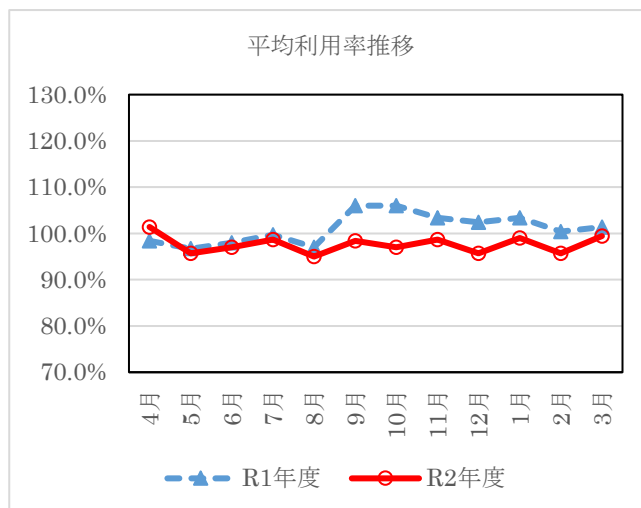
生活介護

定員	10 名
開所日数	311 日
延べ利用者数	3,199 名
平均利用者数	10.3 名
平均利用率	103.0%
平均区分	3.9



就労継続支援B型

定員	30 名
開所日数	311 日
延べ利用者数	9,094 名
平均利用者数	29.3 名
平均利用率	97.7%
平均工賃	35,121 円



イ、《愛光園ホームあすか（共同生活援助）》

a 概況

- ・コロナウイルス感染予防等に注意しながらの生活全般の支援を行いました（マスクの着用、手指消毒、取手等の消毒、トイレ・洗面所・共同使用箇所の消毒の徹底、買い物代行等）。また、毎朝の検温で、体調確認をする事で感染症等のリスク軽減に繋がりました。
- ・外出制限（買物・外食）や外泊制限等（体温管理『同居者含む』）も行いながら感染症リスクの軽減に協力いただきました。（利用者、家族等）
- ・レクリエーションについては法人内での活動を工夫し楽しめる様に対応しました。

4月 夕食デザート提供：スタッフ手作りフルーツ（フルーツ缶+タピオカ）

5月 カレー 夕食会：スタッフ手作り特性カレーを提供

8月 園内花火大会・納涼祭：スイカ、お弁当+デザート、花火

10月 ハロウィンパーティー：お弁当+ケーキ+飲み物；ハロウィン着ぐるみ等写真

12月 クリスマス会：ビンゴを使用した抽選会（賞品付）

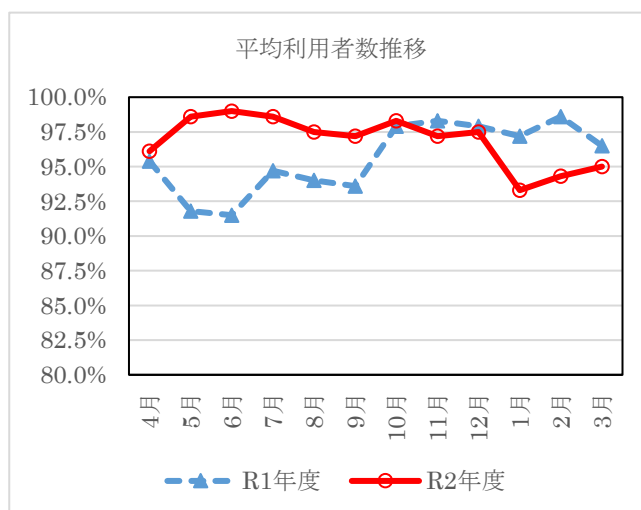
アルファ化米体験①：非常時の時使用するアルファ化米を体験（カレー）

2月 アルファ化米体験②：スタッフ手作り牛丼（アルファ化米使用）。デザートに三桧屋ケーキ付

3月 特弁当提供：花見の桜を工作で作成（利用者参加）+テーブルに生花を見ながら花見

b 利用率の推移

定員	28 名
開所日数	365 日
延べ利用者数	9,888 名
平均利用者数	27.1 名
平均利用率	96.8%



(4) 大久保事業所

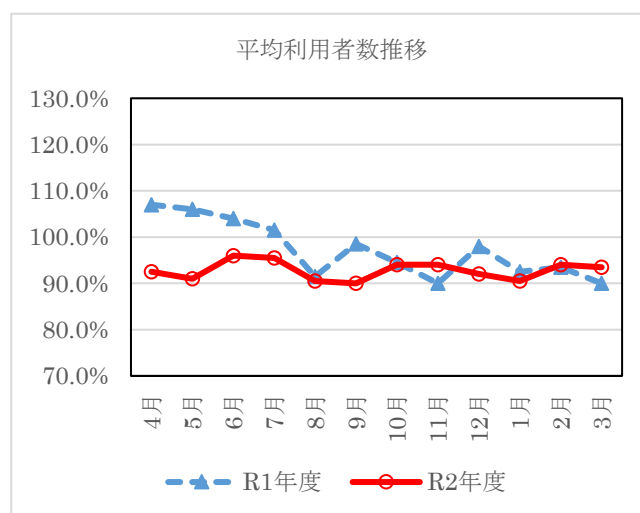
《一步（就労継続支援B型）》

a 概況

- ・コロナ禍による売り上げ減少において、法人内事業所の協力により売り上げ確保に努めました。
- ・利用者の社会参加の実現を目指す為、それぞれの障害程度や特性に応じた作業支援の提供を行い、また、能力の向上に努めました。
- ・職員、利用者共に協力し、新商品の開発を進めることで、売り上げの向上と、利用者の工賃向上を目指しました。
- ・広報誌『一步報』を発行し、販売やレクレーションなどの様子を保護者、ご家族等にお知らせすることで、情報の共有や、透明性のある事業所づくりを行いました。
- ・令和2年4月から施行された食品表示法に則り、加工食品の食品表示を実施しました。
- ・食品を扱う事業所として、また、コロナ禍での感染予防対策の為、手洗いの実施やアルコール手指消毒を励行し、感染予防や衛生管理に努めました。

b 利用率の推移

定員	20 名
開所日数	269 日
延べ利用者数	4,978 名
平均利用者数	18.6 名
平均利用率	93.0%
平均工賃	11,814 円



(5) あづま事業所

ア、《彩光園（生活介護・就労継続支援B型）》

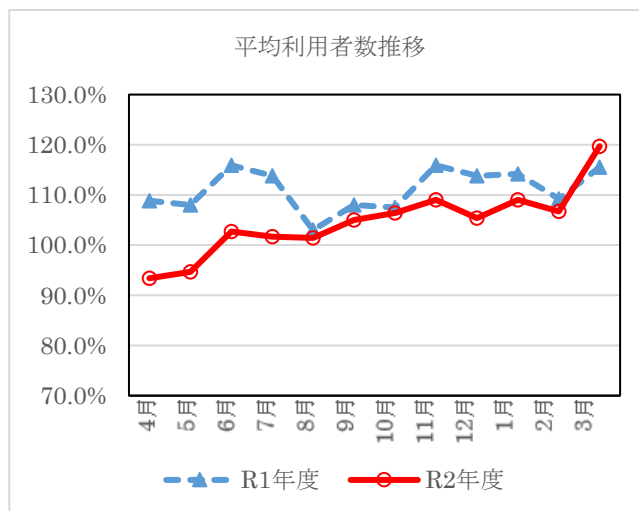
a 概況

- ・4月より、定員を変更し（B型：16名→10名、生活介護：24名→30名）、より重度の方の生産活動の機会の確保ができるよう支援を行いました。
- ・作業においては、クリーニングのたたみ作業に加え、ビデオテープの解体作業や収納キャスターの梱包作業等新しい作業を取り入れました。また、様々な障害特性に応じた作業提供、コロナ禍における感染防止対策、バリアフリーの環境を活かし、安心して作業を行える環境設定を行いました。
- ・施設外就労では5年目を迎え、協力企業との連携強化をすすめ、利用者の作業能力に応じてステップアップできる機会を設けながら取り組みました。作業内容もクリーニングの前処理作業を中心に多種に渡り任せていただけるようになり、利用者も作業に対しての責任感が増し、自覚をもって作業に取り組んでいただきました。
- ・コロナ禍において、彩ホール内の感染症予防対策を徹底し、利用者の健康管理に努めました。
- ・一部室内レクや外出行事等の自粛により活動の制限を設け、安全にかつ利用者を楽しんでいたようなレクの企画、実施を行いました。
- ・コロナ禍において、電話等を使用し外部と積極的に情報共有を行い、利用者の支援の向上を図りました。

b 利用率の推移

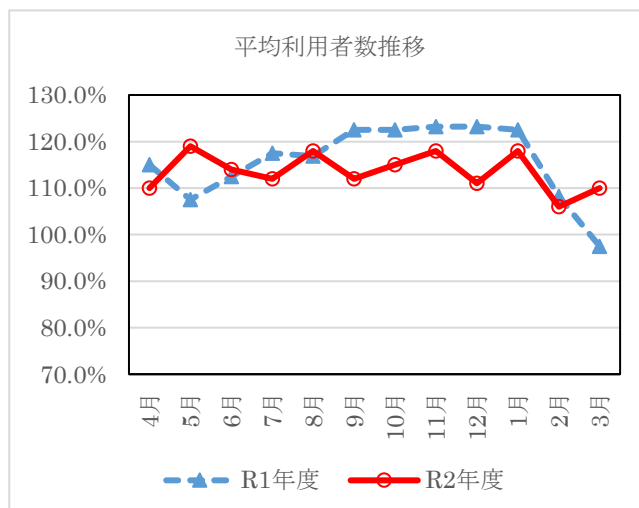
生活介護

定員	30名
開所日数	311日
延べ利用者数	9,741名
平均利用者数	31.4名
平均利用率	104.7%
平均区分	4.4



就労継続支援B型

定員	10名
開所日数	311日
延べ利用者数	3,520名
平均利用者数	11.3名
平均利用率	113.2%
平均工賃	25,868円



※延べ利用者数、平均利用者数、平均利用率は施設外就労 1,555名/年を除く

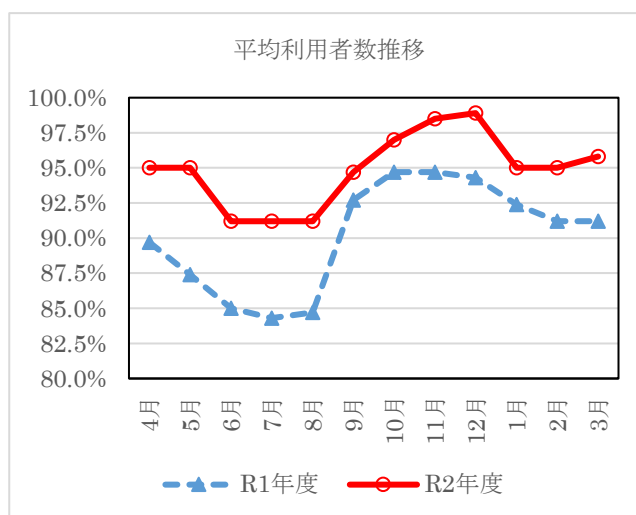
イ、《ホームかがやき（共同生活援助）》

a 概況

- ・障害支援区分は、区分無しの方から区分6と様々で、その特性に合わせた支援を行っております。棟ごとの平均区分の内訳は、かがやき・きらめき4.4、ひばりは3.4となり、かがやき、きらめきに関しては障害が重度の方も多くご利用いただいております。
- ・「利用者本位」「利用者主体」を考え、個別支援計画の作成を行いました。また、個々が持つ強みや、ご家族の要望を汲み取り、日々の支援からモニタリングを実施し、変動するニーズに合った支援を実践しました。
- ・新型コロナウイルス感染の予防のため、手指消毒、マスク着用、外出の自粛に努めました。その中でも、例年であれば地元の上羽田町八幡宮の祭りや、地区の納涼会に参加するなど、地域の一員としての関わりがありますがコロナ禍で自粛する年となりました。レクリエーションも園内での活動が主となり、農園で育てた野菜を収穫し皆で味わったり、テイクアウトの食事で盛り上がり、ささやかながらも利用者の皆様、楽しく参加しておりました。

b 利用率の推移

定員	26名
開所日数	365日
延べ利用者数	8,979名
平均利用者数	24.6名
平均利用率	94.7%



ウ、《なないろ（放課後等デイサービス・児童発達支援）》

a 概況

○放課後等デイサービス

- ・新型コロナウイルスの感染拡大に伴う各校の長期休校と、その後の学校再開に伴うカリキュラムの変更にも個々に対応し、利用児の安全・安心の居場所作りに努めています。
- ・コロナ禍の休校のため「個別支援計画」の承認は、前期モニタリングも10月となりましたが、保護者とは随時話し合いに努め、療育へのご理解をいただいております。
- ・コロナウイルス感染防止に配慮した施設設備の活用に当たっては、『にじ棟』の広いオープンスペースの大型テレビでYou Tubeによる体操やダンスを療育に取り入れストレスを抱えやすい思春期の中学・高校生的心と身体を守るようにしました。小学生が利用する棟『なないろ棟』や『きらら棟』では大きなホワイトボードやパーテーションをいくつも購入しソーシャルディスタンスを配慮した机やテーブルの配置を工夫しました。
- ・利用児への共通理解を深め月ごとの行事の運営はもちろん、放課後等デイサービス事業に関わる職員のスキルを高く保てるよう会議や研修を実施しています。
- ・なないろだより『れいんぼう』は各関係機関からの原稿をいただき、行事予定や写真等で利用

児の様子をご家族や在籍校へ毎月お知らせしています。また、保護者へはその日の利用児の活動を伝えると共に必要に応じて個別の相談も随時行っています。

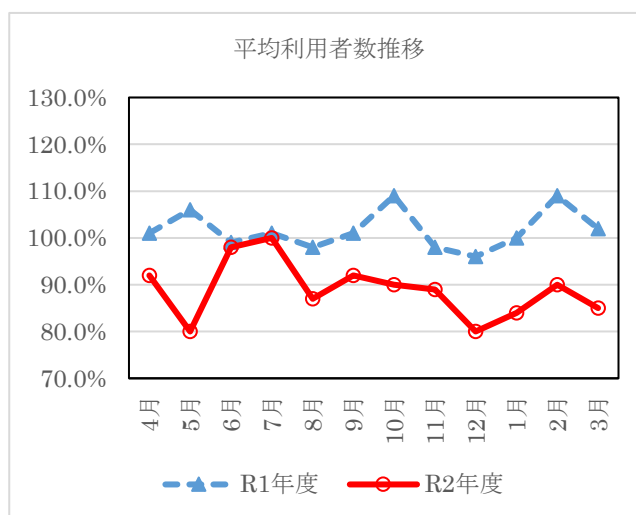
○児童発達支援

- ・年度前半はコロナ禍による保育園や幼稚園の外出自粛でお休みするケースもありましたが、土曜日開所は仕事をしてらっしゃる保護者の方々の支持を受け、年度後半は多くの利用児が通所され充実した活動が実施されました。
- ・支援員を通じて、利用児の日々の成長と保護者の子育ての悩みに細やかに対応できるよう、児童発達管理責任者が随時対応を行いました。
- ・手先の巧緻性やコミュニケーション等を育む個別の支援と、小集団による社会性を育てる療育を組み合わせ提供し、保護者の皆様から好意的なご意見をいただいております。また、支援員は療育終了後、保護者へ利用児の活動の様子や成果を細かく伝え、安心した利用を継続できるよう支援しました。

b 利用率の推移

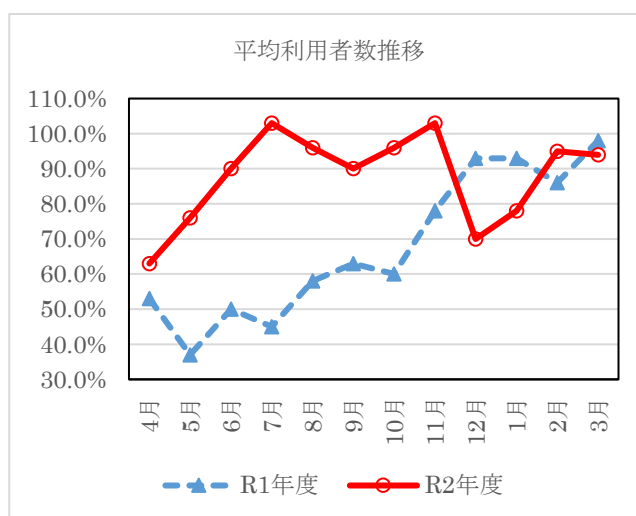
放課後等デイサービス

定員	10 名
開所日数	292 日
延べ利用者数	2,588 名
平均利用者数	8.9 名
平均利用率	89.0%



児童発達支援

定員	10 名
開所日数	50 日
延べ利用者数	438 名
平均利用者数	8.8 名
平均利用率	88.0%



(6) 六郷事業所

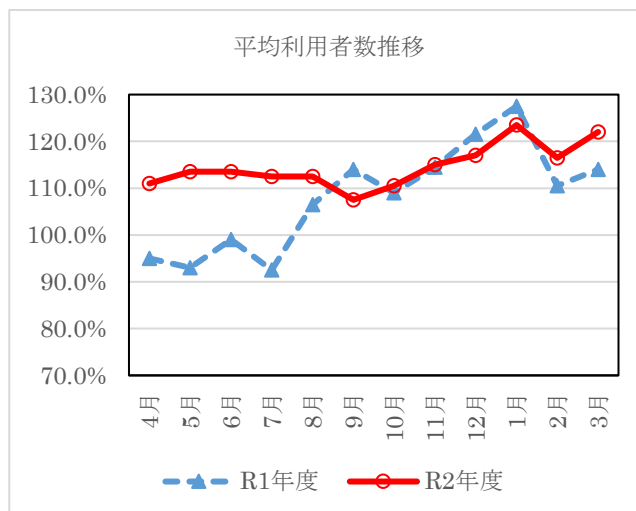
ア、《ラクーン（生活介護）》

a 概況

- ・コロナウイルスの影響により、様々な活動の企画や実施は難しく、余暇活動の面においては、同一敷地で可能な企画を実施しました。
- ・新規利用者において、自閉傾向の知的重度の利用者の受け入れが多く、フロアを分け、担当の職員を設置するなど、個別での利用者の対応を行いました。
- ・感染防止のため、次亜塩素酸水等を使用し、例年以上に清潔に努めました。
- ・レクリエーションについてはコロナ禍における感染予防を行いながら、季節感の感じられるイベントを開催しました。
- ・地域ボランティアを招致したレクリエーションにおいては、新型コロナウイルスの影響により自粛し、実施出来ませんでした。
- ・頻回に担当者会議等を開催するように努め、情報の共有や問題の解決等に取り組みました。
- ・感染防止のため介護部会の全体での研修が行えない中、事業所単位での勉強会に力を入れ、ラクーンでは利用者の特性に応じた勉強を中心にスキルアップを図りました。
- ・虐待防止法研修は、2～3月に全職員に対し実施し、虐待に対する意識を高めました。
- ・事故防止の観点から、軽微なことでもヒヤリハットの記載を推奨し、年計 53 件の報告がありました。

b 利用率の推移

定員	20 名
開所日数	311 日
延べ利用者数	7,100 名
平均利用者数	22.9 名
平均利用率	114.5%
平均区分	4.5



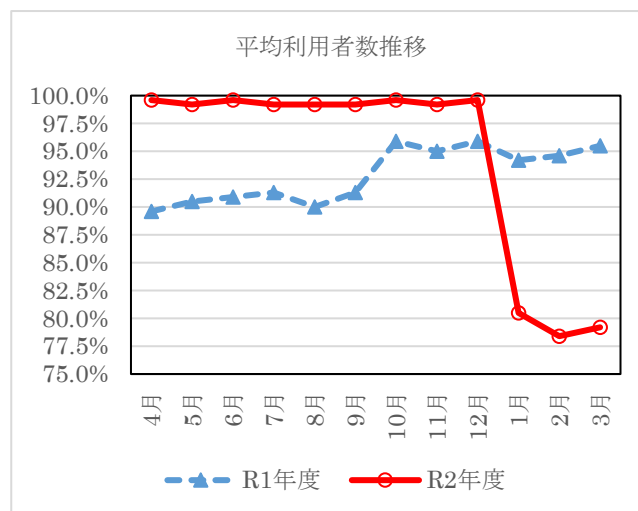
イ、《セレッソ館（共同生活援助）》

a 概況

- ・コロナ禍の中、利用者の方々の健康管理を重視し安心、安全に生活出来る環境の整備を行い、何事も迅速な対応を致しました。
- ・各職員自身の健康管理は勿論、QOCLに努め、レベルアップしたサービスの提供に力を入れました。※QOCL=QOL（人生の質） + communication（コミュニケーション）の向上
- ・レク行事等も、コロナ禍の中、施設内でより創意工夫したイベントの実施を致しました。
- ・計画的な防災訓練の実施、建物及び什器備品の定期的保守点検の実施を行い、安全・清潔の維持に努めました。

b 利用率の推移

定員	24 名
開所日数	365 日
延べ利用者数	8,256 名
平均利用者数	22.7 名
平均利用率	94.6%



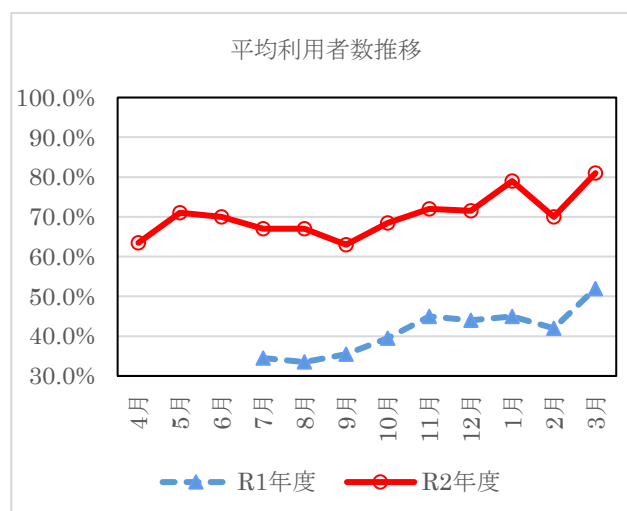
ウ、《三軒屋總本店（就労継続支援 B 型）》

a 概況

- ・コロナ禍により、一時前年同月と比べ 8 割減となるなど、来店客や売上の減少等大きな影響がありました。それに対応するため、新たにコッペパンをはじめ新商品の開発や既存商品の改良に励み、来客・売上の維持、向上に努めました。また、新商品開発に励むことで、利用者への新たな作業の提供をすすめました。
- ・工場内の整理整頓や設備の改修等により、清潔で安全な作業環境の提供に努めました。
- ・作業工程の見直しや改善を行うことで、一人一人の障がい特性に合った作業提供が実現でき、今まで以上に多様化するニーズに応えられる事業所を目指しました。
- ・年間定期購買や法人内での主食提供等を開始し、コロナ禍においても安定して作業を提供できるよう努めました。
- ・食品に関わる事業所として手洗い・消毒を確実にを行い、衛生管理を徹底しました。
- ・利用者家族やグループホーム、関係機関との情報共有を積極的に行い、連携を強化することで個別支援の充実に努めました。

b 利用率の推移

定員	20 名
開所日数	310 日
延べ利用者数	4,344 名
平均利用者数	14.0 名
平均利用率	70.1%
平均工賃	27,590 円



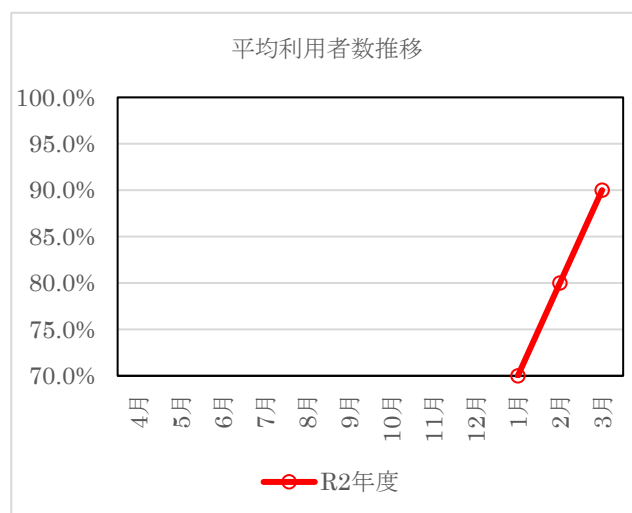
エ、《ホームみやび（共同生活援助）》

a 概況

- ・令和3年1月1日に開所となりました。
- ・3月末日時点で9名の方が利用となり、5月での満床を見込んでおります。
- ・外出行事を含めレクも日本全体が自粛ムードの中、思うように実施することができませんでした。
- ・手洗い手指消毒・換気・施設内でもマスクの着用等を励行し、利用者の皆様とスタッフ一丸となり、安心安全な生活の場づくりに努めました。

b 利用率の推移

定員	10名
開所日数	87日
延べ利用者数	699名
平均利用者数	8.1名
平均利用率	81.0%



(7) 猿田事業所

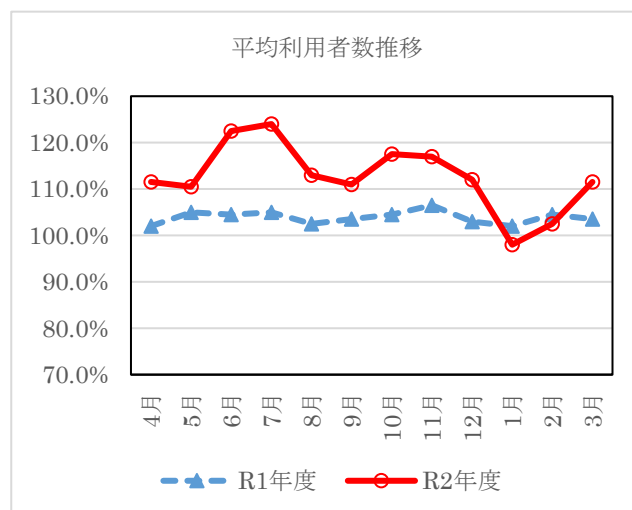
ア、《フルーエ（生活介護）》

a 概況

- ・コロナウイルス感染症対策（マスクの着用、うがい、手指消毒、送迎車内の消毒、ホール内の消毒、換気の徹底）を通年行う事で感染者を出すことなく支援できました。
- ・外出レクを自粛している中、利用者に喜んでいただくため、キッチンカーやテイクアウト、出前等、普段食べられないものを提供しました。（ラーメン・餃子；実費負担）
- ・行事については、ホール内でできるものを行いました。（2周年記念、手作りおやつ、手作りカレー、夏祭り、敬老会、ハロウィン、クリスマス会、新年会、手作りたぬきそば等）
- ・フルーエの取り組みとしては入浴日と活動日を分けて取り組む事で、利用者との関わる時間が確保出来、継続した活動の取り組みを行うことができました。活動日（火・木）は音楽療法や創作活動など、楽しく参加出来る内容を提供しました。
- ・令和2年度から第2、第4土曜日も開所日になり利用する選択日が増え喜ばれました。
- ・フルーエ東側ウッドデッキ改修工事を行い、気候の良いときは安全にウッドデッキで過ごすことが出来るようになりました。
- ・生産活動として内職を希望する利用者が多く、活動を調整しながら提供を行いました（おかずカップ詰め、エバーパッキン）。おかずカップ詰めについては中国の製品ということもあり4～5月は商品が入荷されないということもありました。
- ・職員のスキルアップのため、毎月事業所内研修を実施しました。（車いすの操作方法、送迎や、疥癬、筋ジストロフィー等）

b 利用率の推移

定員	20名
開所日数	277日
延べ利用者数	6,229名
平均利用者数	22.5名
平均利用率	112.5%
平均区分	4.8



(8) 愛光園障害者相談支援センター共生

指定特定相談支援事業所の名称	愛光園障害者相談支援センター共生		
主な対象市町名	栃木県足利市、佐野市、群馬県館林市		
職員配置の状況	氏 名	職種等	資格等
	原 健一	相談支援専門員	社会福祉士、精神保健福祉士、介護支援専門員
	室岡 三慈	相談支援専門員	社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員
業務項目	業務の実施方針等		回数、件数、開催時期等
① サービス等利用計画およびモニタリングの実施	○利用者がその有する能力及び適性に応じ、自立した日常生活又は社会生活を営むことができるような計画を作成しました。 ○利用者の意思及び人格を尊重して、利用者の立場に立ち計画の作成を行いました。		随時 成人 173 件 児童 23 件
	○利用者の希望や目標の達成状況などを含めて、モニタリングを実施し、生活の向上を目指す支援を行いました。		・モニタリング時期 ・状況の変化に応じて 成人 438 件 児童 7 件
② 関係機関との連携	利用者の望む生活が実現できるよう、市町、障害福祉サービス事業者等との連携を図りました。		随時

(9) 足利市障がい者基幹相談支援センター

障害者相談支援事業 実績報告書(令和2年度)								
障害者相談支援センターの名称等	足利市障がい者基幹相談支援センター							
対象市町村名	足利市							
職員配置の状況	氏名	職種等	資格等					
	石井 善憲	センター長	放射線技師					
	長 秀紀	主任相談支援専門員	社会福祉士、社会福祉主事、障害者上級ケアマネ研修修了、介護支援専門員、主任相談支援専門員					
	尾澤 嘉孝	相談支援専門員	社会福祉主事、手話通訳者、セルフ士、障害者上級ケアマネ研修修了、全リハ協アドバンスコース修了、高校2級社会科教員免許					
	勝又 明日香	相談支援専門員	精神保健福祉士、社会福祉士、社会福祉主事、介護支援専門員					
	館野 真弓	相談支援専門員	社会福祉士、社会福祉主事					
相談実績	相談実人数		493					
相談形態 (延べ件数)	電話・メール	来所	訪問	同行	関係機関	支援会議	その他	計
	1,356	329	563	120	920	21	92	3,401
処理(対応)実績(延べ件数)								
情報の提供			2,114					
サービス利用の助言			321					
サービス利用の申請援助			383					
生活プラン作成援助			1					
他機関紹介			41					
その他			1,139					
合計			3,999					
※相談形態と処理(対応)実績の件数については、1件の相談で複数の処理(対応)をする場合もあるため、件数は一致しません。								
○ 相談事例(福祉サービスにつなげた主な事例)								
○身体障害者 30代男性。交通事故により高次脳機能障害と両上肢および体幹機能障害あり。リハビリ病院を退院して自宅に戻りたいとの相談。自宅はバリアフリーでないため、敷地を整備し新しくバリアフリーの住宅を建てることになった。同時進行で、入院中に在宅に戻った際のイメージを両親と共有し、ベッドやシャワーチェア等の福祉用具の手配、外泊に合わせて訪問看護(リハビリ)の紹介、生活介護の見学を行い、計画相談事業所の紹介を行った。退院後は、計画相談事業所の立てたプランに基づき、生活介護、短期入所、訪問看護を利用して両親と生活している。								
○知的障害者 50代男性。H20年ごろから仕事が無い状態で初回の関りは平成24年にNPO法人の方から知的と思われる方が、仕事も無く困っているが、手帳が無いとのこと。支援をして欲しいとの話があり面接したが、中学卒業後からいろいろ働いたがうまくいかず、現在は仕事が無いので収入がなく、弟が主に働いて生計を立て、年金生活の両親が高齢で本人が世話をしているとのことで、乗り気ではなかったため、中断、その後も周囲からの心配の話があったが、本人がその気にならなかった。R2年5月に両親も亡くなり弟からの生活費は少額で生活できないと本人から相談があり、手帳申請と年金申請について再度説明し、成育歴を確認するも本人の記憶の範囲でしか掴めないもので、20歳前の状況を知る元先生や同級生を探し、証明をお願いし手帳申請を行い、B2の手帳が交付となり、年金申請の費用が用意できるのを待って、Drに診断書を依頼し、申立書の記入作成を支援し、年金申請を行い、2級年金給付が決定、本人も収入が入ることで安心感ができ、できる範囲でのアルバイトを始めることで、弟の支援を受けながら、生活ができるようになった。								
○精神障害者 30代男性。適応障害で現在市内の精神科病院に通院している。昨年まで派遣の仕事をしていたが、気分が波があり、落ち込むと仕事に対する恐怖感が生まれ、仕事ができなくなってしまい退職。今後は精神的な安定を図ることを優先し、無理をせず段階を踏んでまた就職したいという気持ちがあるので就労支援の利用を希望。福祉サービスで利用できる就労支援を紹介したところ、今回は就労継続支援B型の利用をしたいという意向が聞かれたため、いくつかの事業所を見学し、体験利用を行った。現在市内の就労継続支援B型を週5日利用。順調に通えている。								

18 / 29

社会資源創出等に関する企画・提言（企画・提言の有無、内容、提言結果等を記載）

足利市地域自立支援協議会の各専門部会において、地域課題の協議を行った。

○地域支援部会1G(精神疾患のある方の地域課題の協議)

地域課題についての意見出しを行い、取り組みそうな課題についての意見交換を行った。意見としては、障害福祉サービスから介護保険への移行時に困難が生じる。関係機関等の精神障害に関する理解が不足している。新型コロナウイルスの感染拡大により自粛等により精神症状に変調をきたす人が増加している。精神障害者を対象としたヘルパー事業所が少ない。家庭内暴力など、家族関係でトラブルのあるケースが低年齢化している。取り組みそうな課題についての意見として、民生委員等の地域の支援者に精神障害者の理解を促す研修会等を行ったかどうか。医療と福祉の臨機応変な支援体制を構築する。

○地域支援部会2G(知的・身体の障がいのある方の地域課題の協議)

①お陽さまカフェの周知方法の検討について⇒コロナの影響でカフェが開催できていないが、ポスター等を作成し周知していく。

②安心キットの活用の周知について⇒プライバシーの配慮をし、民生委員を通して周知。ポスターやパンフレットを配布しての周知。

③足利市障がい児者施設マップの作成および配布について⇒令和3年3月に2万部発行。市役所、公民館、掲載施設等に配布。

○就労支援部会(就労に関する課題の協議)

①就労系事業所ガイドブック(令和2年度)作成・公開⇒令和2年7月に作成し、足利市障がい者基幹相談支援センターHPで公開

②新規事業所の視察⇒5事業所を予定していたが、新型コロナの感染拡大により延期となった。

③就労継続支援B型施設希望者の就労アセスメントのあり方について⇒就労移行支援事業で行うことで検討を継続する。

④コロナ渦における就労に関する課題についての共有⇒経済の停滞による求人の減少、就労継続支援事業所にも影響あり。

○児童支援部会(児童に関する課題の協議)

医療的ケア児に関するアンケートの確認および実施後の集計

目的:医療的ケア児の状況を把握し、どのような支援ができるかを検討する。

対象児18名に対してアンケートを実施した。生活面、サービス利用面、情報・相談面、避難面、就学時の対応といった項目別にアンケートを実施。以下、一部抜粋。

【生活面】母親の介護負担が大きい、気分転換の外出ができていない、レスパイトで預けられる施設がない人もいる

【サービス利用面】支援内容について説明すると断られることが多い、中学未満では利用可能なサービスがほとんど無い、医療ケアができる体制がないと親が付き添わなければならない、仕事に抜けて行くのは難しい。

【情報・相談面】医療的ケア児の関連した情報の発信が少ない、学校や保育園、幼稚園に入る時に相談する場所が解らない。大人になってから相談をするケースが多い。

【避難面】避難先が決まっていない、指定避難所では対応が困難、避難先で訪問看護が利用できるという

【就学時の対応について】保育所を対象に就学に際しての流れを説明、幼稚園は年1回の説明会を実施、気になった児童が居るか確認して関係機関につなげている。

ピアカウンセラー(障害者相談員等)の活用による相談の実施(相談回数、相談の概要、結果等を記載)

相談回数:0回

地域の相談支援体制の強化の取り組み

○市内の相談支援事業者に対する専門的な指導、助言
対応困難なケースについて、その対応について検討し関係機関を招集してケア会議を開くなどして指導、助言を行った。

○市内の相談支援事業者の人材育成の支援および地域の相談機関との連携強化の取り組み
安足地区障害者相談支援事業者等連絡会において、佐野市の障がい者基幹相談支援センター(みどり、さの)、障害者相談支援協働コーディネーターと協力し、相談支援事業者等を対象とした研修会を企画する予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大によりおおよそその企画はできたが、実際の開催ができなかった。

○身体、知的、精神、発達、高次脳、難病等、障がいの種別も多岐に渡り、重複している方からの相談も寄せられた。新型コロナウイルスの感染拡大に関連して、自粛から精神的・身体的ストレスからの相談も一定数寄せられた。それぞれ、インテーク面接を経てアセスメントを行い、ニーズを明らかにしつつ、関係する機関・団体等と連携して相談を進めた。

就労に関する相談については、より専門的な対応を行う両毛圏域障害者就業・生活支援センター、ハローワーク、足利市健康福祉部生活保護担当の就労支援員などと連携し対応した。

また、精神疾患のある方については、安足健康福祉センター、かかりつけ医、訪問看護、指定特定相談支援事業所等との連携して対応した。

○足利中央特別支援学校および足利特別支援学校、南那須特別支援学校、県立盲学校の進路相談会に市の担当と出席し、本人、親と担任、進路指導主事と卒業後の進路について検討を行った。

○市役所窓口による相談業務 11 件
市・障がい福祉課に相談支援相談支援員が出向き相談対応を行った。相談内容により、市の関係部署の担当者と一緒に面接し相談に対応した。障がいによっては、他の相談支援専門員に引継ぎ対応し、生活に困窮している障がい者などについては、生活保護担当と連携を図って対応した。

総合的・専門的な相談支援の実施について

○身体、知的、精神、発達、高次脳、難病等、障がいの種別も多岐に渡り、重複している方からの相談も寄せられた。また、障がいの疑いがあり、障害手帳や自立支援医療の手続きの相談も一定数あった。

それぞれ、インテーク面接を経てアセスメントを行い、ニーズを明らかにしつつ、関係する機関・団体等と連携して相談を進めた。

就労に関する相談については、より専門的な対応を行う、両毛圏域障害者就業・生活支援センターなどに連携し対応した。

また、精神疾患のある方については、安足健康福祉センターや精神科病院等との連携して対応した。

○足利中央特別支援学校および足利特別支援学校、南那須特別支援学校の進路相談会に市の担当と出席し、本人、親と担任、進路指導主事と卒業後の進路について検討を行った。

その他(関係機関との連携状況等を記載)

○足利市健康福祉部生活保護担当が主催する「生活困窮者自立相談支援事業支援調整会議」に出席し、障がい者の対象者に対しての意見や対応に関しての検討を行い、連携を図った。

○地区の包括支援センター、介護事業所、民生委員、住民等と連携を図るために、北郷地区合議体に参加し、地域の情報と課題の共有を図り、必要な時に連携が図れるようにした。他の地区については、高齢者支援連携協力会議が企画された地区もあり参加依頼があったが、新型コロナウイルスの感染拡大で中止となった。

○市の若年性認知症の支援の取り組みに参画し、関係者および市民対象の研修会を行い、多くの方に若年性認知症の理解を促すきっかけとした。

○安足地区精神障害者支援ネットワーク会議については、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、会議は中止となった。

○就学前の保育園、幼稚園の特別支援コーディネーターワーキングに助言者として協力した。

○足利市中心身障害者・発達障害児療育推進連携協議会に委員として出席し、障害児の支援について協議を行った。

○栃木県高次脳機能障害者支援連携協議会に出席し、高次脳機能障害のある方の支援ガイド作成のためのアンケート実施について協議を行った。

○地域生活支援拠点整備事業(あっしーネット事業)については、知的障害のある30代男性と同居している父親が、緊急入院することになり、短期入所の利用決定がなかったため、市の担当と協議し、日中通所する就労継続支援B型を運営するあっしーネット登録事業所に依頼して利用となった。1週間の緊急短期入所事業を利用した後は、福祉ホームの利用に切り替え、父親退院後に本人、父親、兄弟、関係者で会議を開き、グループホームに入居することになった。

令和3年3月31日現在の登録者数は130名である。自立支援協議会において、緊急短期入所事業を利用するにあたり、不安を抱える児童を対象に体験入所事業について令和3年度にかけて体制を整備していくことになっている。

3. 部会報告

(1) 就労部会

クリーニング事業を中心に法人内の就労支援事業について、各事業所の生産性の向上や取り組みの共有・連携を目的としております。また、生活介護が行う内職関係の導入についても前向きに取り組む体制を取っております。

日付	区分	内容等	人数
R2.5.29	運営会議	R2 年度部会体制について 各事業所の生産状況 職員状況（今年度の部員 25 名） 利用者状況 その他（稲岡連洗入替について）	6
R2.8.28	生産委員会	各事業所の生産状況 新規品及び解約品の状況 職員状況 設備営繕関係について 課題と対策について その他	8
R2.10.26	生産委員会	各事業所の生産状況 新規品及び解約品の状況（キャスター梱包作業について） 職員状況 設備営繕関係について 研修等について 課題と対策について 協議事項（年末年始操業について）	10
R2.12.14	生産委員会	各事業所の生産状況 新規品及び解約品の状況（キャスター梱包作業について） 職員状況 設備営繕関係について 研修等について 課題と対策について 協議事項（年末年始操業について）	8

* 令和 2 年度の部会員が集まっての研修会等はありませんでした。

(2) 介護部会

新型コロナウイルス感染予防対策を行いながらの少人数での研修の実施や、事業所の特徴に合わせた事業所独自研修を各拠点で開催しております。また、持ち寄った課題を運営会議において、各事業所の問題を会議メンバーで議論し問題意識を高めるよう努めております。

日付	区分	内容等	人数
R2.4.14	運営会議	・新型コロナウイルスの影響により中止。	-
R2.5.12	運営会議	・令和2年度の介護部会の方向性について。 ・新型コロナウイルスの各事業所、対応・対策について。 ・平成31年度の介護部会振り返りについて。 ・外出自粛に伴うレクリエーション、外食などについて。	8
R2.6.12	運営会議	・令和2年度の介護部会について。 ・散歩など屋外でのレクリエーションについて。 ・腰痛について。予防と対策。	7
R2.7.15	運営会議	・事業所独自研修報告会。 ・新規利用者の健康診断書について。 ・リモートを使用しての運営会議の開催について。	7
R2.8.13	運営会議	・事業所独自研修報告会。 ・ユニフォーム（ズボン）の変更について。 ・夏祭りイベント等の実施状況について。	7
R2.9.21	運営会議	・事業所独自研修報告会。 ・新型コロナウイルス支援金の用途について。 ・ヒヤリハット検証。	8
R2.10.21	運営会議	・事業所独自研修報告会。 ・ユニフォーム支給について。 ・介護スタッフのアクセサリー着用について。	8
R2.11.20	運営会議	・事業所独自研修報告会。 ・介護部会全体会開催について。 ・装飾品、アクセサリー着用について。	9
R2.12.14	運営会議	・事業所独自研修報告会。 ・介護部会全体会、新型コロナウイルス感染拡大により中止。 ・虐待防止研修について。	9
R3.1.22	運営会議	・事業所独自研修報告会。 ・新型コロナウイルス感染拡大につき、リモート会議。 ・太田市、大泉町、邑楽町周辺の送迎について。	8
R3.2.23	運営会議	・事業所独自研修報告会。 ・各事業所虐待防止研修施行状況について。	8
R3.2.18	運営会議	・事業所独自研修報告会。 ・来年度の介護部会運営委員会について。 ・法人内併用利用をしている利用者について。	8

(3) 居住部会

サビ管委員会、レク委員会、生活向上委員会の3部構成とし、住まいの場として、利用者の生活を支える支援と、それに対する事業計画を考えることができる職員の育成を行っております。

日付	区分	内容	人数
R2.5.19	サビ管委員会	コロナウイルス感染予防準備品について 請求についての確認	6
R2.6.17	サビ管委員会	スタッフの育成について 開所予定の GH について	5
R2.7.21	サビ管委員会	中期目標について 感染時対応キッドについて	5
R2.8.11	サビ管委員会	外泊、帰省について 困難ケース検討会	5
R2.9.8	サビ管委員会	困難ケース検討会 業務内容について	5
R2.11.10	サビ管委員会	開所予定 GH への異動候補者検討 入居者の食事制限（医療面）について	6
R2.12.8	サビ管委員会	コロナ禍での年末年始外泊について 困難ケース検討会	5
R3.1.12	サビ管委員会	コロナ禍での対応再確認（近隣施設でのクラスター発生を受けて）	7
R3.2.9	サビ管委員会	虐待防止研修について 困難ケース検討会	5
R3.3.12	サビ管委員会	主食（米）の法人内調達について 令和2年度の振り返りと令和3年度について	6

※令和2年度は、レク委員会、生活向上委員会の会議、研修等はありませんでした。

(4) 地域支援部会

目的：社会福祉士および精神保健福祉士の資格を活かし、より良い支援が行え、法人内の各事業所の援助に関する助言ができる人材を育成するよう運営しております。

日付	区分	内容	人数
R2.8.27	研修	「援助技術の基本と応用 ～見えるか（化）、分かるか（化）、楽しいか（化）～」 （講義 足利市障がい者 基幹相談支援センター 長 秀紀	17
R2.10.29	事例検討	法人内の困難事例の検討	17

以下コロナウイルス感染拡大のため中止

R2.12.17	事例検討	法人内の困難事例の検討	—
R3.2.25	運営会議	今年の取り組みの振り返り	—

4. 評議員会の開催状況

	日程	内容
1	R2.6.22	業務状況等について 令和元年度事業報告について 令和元年度決算報告について 他
2	R3.3.26	理事長の職務執行状況の報告について 令和2年度補正予算について 令和3年度事業計画について 令和3年度予算について 他

5. 理事会の開催状況

	日程	議案内容
1	R2.6.5	理事長の職務執行状況の報告について 令和元年度事業報告 令和元年度決算報告 定款の変更について 役員の選定について 他
2	R2.10.9	理事長の職務執行状況の報告について 評議員選任・解任委員会の選任について 中期計画の策定について 他
3	R3.1.28	不動産売買契約の締結について 職員就業規則の改正について 評議員会の開催について 土地取得について 他
4	R3.3.26	理事長の職務執行状況の報告について 令和2年度補正予算について 令和3年度事業計画について 令和3年度予算について 他

6. 職員の研修等実施状況

令和2年度 外部研修等実施状況

※本表は職員の資質・技術の向上を目的とする又はその効果を見込む外部の研修等を掲載しています。

		研修名（内容等）	主催者等	参加者	所属
1	7月1日 8日	令和2年度 社会福祉施設中堅職員研修会	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会	武石 久美	陽光園
				岩崎 健太郎	陽光園
				天田 衿菜	陽光園
				山田 悦子	陽光園
2	7月6日 7日	安全衛生推進者等養成講習	(一社) 栃木県労働基準協会連合会	津布子 昌宏	彩（彩光園）
				永倉 徹	彩光園
3	7月21日 22日	令和2年度栃木県サービス管理責任者研修等受講資格取得研修	特定非営利活動法人栃木県障害施設・事業協会	大塚 哲	ホームほのか
				岩崎 健太郎	陽光園
				狐塚 修	フルーエ
4	7月22日	安全運転管理者等法定講習	栃木県公安委員会	押山 大徳	彩（彩光園）
5	8月11日	令和2年度栃木県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者基礎研修	栃木県障害施設・事業協会	大塚 哲	ホームほのか
				狐塚 修	フルーエ
6	8月24日 26日	就労支援フォーラム NIPPON (WEB)	公益財団法人日本財団	川俣 聡司	陽光園
7	9月3日	社会福祉施設指導監督職員研修会	社会福祉法人 栃木県社会福祉協議会	羽深 智敬	足利愛光園
				佐藤 圭	ラクーン
				高橋 啓介	ホームかがやき
				永倉 徹	彩光園
8	9月7日	安全運転管理者等講習会	一般社団法人栃木県安全運転管理者協議会	小野 広久	陽光園
				羽深 智敬	足利愛光園
9	9月26日	障害者就労施設等	一般社団法人 群馬県社会就労センター協議会	藤田 勝美	三樹屋總本店

		に対する工賃向上 コンサルタント派 遣事業（集団受講 形式）	会		
10	9月29日	令和2年度栃木県 サービス管理責任 者更新研修	特定非営利活動法人栃木県障害施設・事業協会	佐藤 圭	ラクーン
11	10月12日	令和2年度社会福 祉施設長研修会	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会 福祉人 材・研修センター	川俣 弘美	彩光園
12	10月13日	令和2年度 ひき こもりサポーター	栃木県子ども若者ひきこもり総合相談センタ ー（ポラリスとちぎ）	川俣 弘美	彩光園
13	10月22日	令和2年度相談技 術研修会	みそら行政書士・社会福祉士事務所	原 健一	愛光園障害者相談支援 センター共生
14	10月24日	障害者就労施設等 に対する工賃向上 コンサルタント派 遣事業	一般社団法人群馬県社会就労センター協議会	藤田 勝美	三桝屋總本店
15	10月29日 11月9日	改正食品衛生法 オンライン連続セ ミナー（WEB）	NPO 法人日本セルフセンター	星 美津男	愛光園
	押山 大徳			一歩	
	恩田 真由美			一歩	
	松崎 友紀			一歩	
16	11月6日	令和2年度障害者 支援施設等職員研 修（WEB）	栃木県精神保健福祉センター	浅沼 駿介	足利愛光園
				春山 奈菜	彩光園
17	11月9日 10日	令和2年度サービ ス管理責任者基礎 研修	NPO 法人栃木県障害施設・事業協会	岩崎 健太郎	陽光園
18	11月10日	令和2年度県社協 独自研修 コミュ ニケーション講座	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会福祉人材・ 研修センター	松本 悠莉	ブルーエ
				狐塚 修	ブルーエ
				浅沼 駿介	足利愛光園
				勅使川原 彩	愛光園
				家住 涼介	彩光園
				押山 大徳	一歩

19	11月16日	安全運転管理者等講習	公益社団法人群馬県安全運転管理協会	関 晋二	ラクーン
20	11月17日	福祉施設における感染症対策セミナー（WEB）	（一社）栃木県老人福祉施設協議会	星 美津男	愛光園
21	11月17日 ～19日	日本財団就労支援フォーラム NIPPON フクオカ	公益財団法人日本財団	羽深 智敬	足利愛光園
				渡辺 幸恵	三桝屋總本店
				川俣 聡司	愛光園
22	11月24日	感染症対策セミナー（WEB）	一般社団法人栃木県老人福祉施設協議会	押山 大徳	一歩
				恩田 真由美	一歩
				松崎 友紀	一歩
23	12月8日	令和2年度地域療育支援事業初任者研修会	地域独立行政法人栃木県立リハビリテーションセンター	齊田 由紀	なないろ（彩光園）
				島田 水滯	なないろ（彩光園）
24	12月21日 ～22日	令和2年度栃木県サビ管・児発管基礎研修	特定非営利活動法人栃木県障害施設・事業協会	狐塚 修	フルーエ
25	12月26日	障害者就労施設等に対する工賃向上コンサルタント派遣事業（集団受講形式）	一般社団法人群馬県社会就労センター協議会	藤田 勝美	三桝屋總本店
26	2月12日 2月26日	栃木県障害者虐待防止・権利擁護研修（WEB）	一般社団法人栃木県社会福祉士会	押山 大徳	一歩
27	3月2日	「福祉施設におけるBCP」～基本的な考え方から策定・運営手法まで（WEB）	損保ジャパン㈱	星 美津男	愛光園
合計				52名	

7. 事業別職員数（令和3年3月31日）

			男			女			合計			平均 年齢	平 均 在籍期間	
			常勤	非常勤	合計	常勤	非常勤	合計	常勤	非常勤	合計			
山川	足利愛光園	生活介護	1	2	3	2	1	3	3	3	6	52.5	7.54	
		B	5	1	6	3	2	5	8	3	11	50.7	6.28	
	あすか		0	0	0	5	4	9	5	4	9	59.8	13.33	
	その他		0	0	0	2	0	2	2	0	2	51.0	19.01	
	小計		6	3	9	12	7	19	18	10	28			
あづま	彩光園	生活介護	2	0	2	5	2	7	7	2	9	44.7	9.15	
		彩	2	6	8	4	3	7	6	9	15	55.3	5.36	
		B	3	3	6	0	2	2	3	5	8	54.3	4.36	
	かがやき		2	4	6	5	4	9	7	8	15	60.5	4.97	
	なないろ		0	2	2	4	6	10	4	8	12	52.3	3.40	
	その他		1	0	1	0	0	0	1	0	1	65.2	18.93	
	小計		10	15	25	18	17	35	28	32	60			
六郷	セレッソ館		2	1	3	4	4	8	6	5	11	62.1	4.52	
	みやび		0	1	1	1	3	4	1	4	5	65.6	0.21	
	ラクーン		3	5	8	3	10	13	6	15	21	48.6	5.49	
	三桝屋		4	6	10	3	7	10	7	13	20	55.7	3.81	
	小計		9	13	22	11	24	35	20	37	57			
アイタウン	ほのか		2	1	3	4	7	11	6	8	14	56.9	4.45	
	ひだまり		2	1	3	3	12	15	5	13	18	62.2	5.53	
小計			4	2	6	7	19	26	11	21	32			
稲岡	工場	愛光園	6	0	6	4	8	12	10	8	18	51.6	8.65	
		共働舎	2	3	5	5	6	11	7	9	16	55.0	7.50	
		その他	1	0	1	0	0	0	1	0	1	50.8	17.51	
		小計	9	3	12	9	14	23	18	17	35			
	介護	陽光園	生活介護	13	5	18	10	5	15	23	10	33	44.6	6.59
			入所	0	1	1	2	1	3	2	2	4	57.4	6.62
		サンリット	1	0	1	1	1	2	2	1	3	46.5	7.57	
		14	6	20	13	7	20	27	13	40				
大久保		一歩	1	1	2	4	3	7	5	4	9	51.7	6.88	
小計			1	1	2	4	3	7	5	4	9			
猿田		フルーエ	3	3	6	6	3	9	9	6	15	49.1	4.94	
		共生	1	0	1	1	0	1	2	0	2	43.0	13.43	
小計			4	3	7	7	3	10	11	6	17			
地域		相談支援	1	0	1	1	0	1	2	0	2	43.9	17.65	
小計			1	0	1	1	0	1	2	0	2			
合計			58	46	104	82	94	176	140	140	280	53.5	8.22	

8. 補助事業の活用状況

令和2年度補助事業の活用状況

補助団体	事業所（施設）	事業名または内容	事業予算・補助額	完了日
日本財団	三桝屋総本店	コロナ危機対応のための パン製造販売に係る機器 整備	総額： 13,849,000 円 補助： 10,900,000 円	令和3年3月
国庫補助 （栃木県）	全事業所	新型コロナウイルス感染 症緊急包括支援事業（障 害福祉サービス等分）	総額： 21,740,903 円 補助： 19,067,000 円	令和3年3月
国庫補助 （群馬県）	全事業所	新型コロナウイルス感染 症緊急包括支援事業（障 害福祉サービス等分）	総額： 4,984,830 円 補助： 4,112,000 円	令和3年3月
国庫補助 （群馬県）	三桝屋総本店	群馬県生産活動活性化支 援事業費補助金	総額： 1,595,000 円 補助： 500,000 円	令和3年3月